

第1回 岡山市環境政策審議会 議事要旨

○生ごみの資源化について検討を行ったほうが良いのではないかと。

●生ごみの資源化により焼却量減少が図れ規模も小さくなるが、コスト増及び収集形態の変更が生じる。今回の計画は、それぞれの市町の基本計画をベースにしているため、新たな政策を考慮すると、全ての基本計画の再策定が必要になる。メリットデメリットの慎重な検討が必要であると考えます。

○可燃ごみだけでなく、資源化物の分別についても広域化計画の中に盛り込んでいただきたい。

●資源化物は比重が軽く運搬効率が悪い。近場の処理で資源化する整理で、今回は共同処理しないこととしている。

その他、容リプラについては取扱が各市町で異なっている。集めた容リプラを資源化するが半分が焼却処分、残渣として埋設されている現状により、本市は分別収集を行っていない。

○来年・再来年に施設ができるというわけではないので、2市1町で情報を共有し、一番いい水準に到達できるように努力していくことを計画に入れて頂きたい。

●はい、今後も2市1町と協議を進めていきます。

○プラスチック類は、マテリアルリサイクルなのか。ごみの中に入れて燃やしてしまうのか。

●容器包装リサイクル法に基づく分別回収により、施設の経費等、多額の費用をかけ1800t程度しか資源化できない。現在は焼却により通常より多くの電気を発生させ、隣接する施設への蒸気供給を行う考えでやっている。

○市民からの意見聴取や啓発をもっと推進していくことが必要ではないかと。

●ごみ処理基本計画の推計量を上回るごみ量が出ているので、減量する必要性は感じており、啓発はもっとやっていく必要があると思っている。有料化した時の説明会で啓発が足りないという指摘があった。現在は出前講座等の活動を行っている。